



**SOS MEXICO**



## メキシコからの報告

ICTE 校長 パオリーナ・レオーニ  
インタビュー 吉見ひかる(オリブプレス編集部)

2017年9月、メキシコで2回におよぶ地震が発生して4ヶ月が経ちました。激しさはないもののいまだ、国内のすべての地域で余震が続いています。それにも関わらず、国は平常に戻りつつあると言えます。平常とは、根強い社会問題が残ったままという意味です。この数か月の間に暴力はさらに著しく増し、地方特有の社会的格差が明らかになるばかりです。

メキシコ国民は、心が広く、建設的であると言われていますが、民衆の心は、貧困に対する嫌気と反骨心を覚えています。贈賄問題は深刻で、解決策を見つけることは不可能ではないで

しょうか。政治権力への投資は増すばかりです。そして残念ながら、買収するのは日々正直に働いている善意の人々であることです。横暴と最高権力の悪用の支配下にある人々は、理不尽かつ信用のおけない法により、結果として腐敗を奨励しています。

ICTE (Instituto Científico Técnico Educativo) はこの4か月間、ホセ・バスコンセロス協会と協力し、次の2点を展開しました。

1. ICTE の生徒、教師、協力者、友人は、震災による経済困難に直面する多くの人々のため、将来の期待と目標の設定、支援。
2. ICTE の教育・文化的提案をさらに明確にし、他大学の教育レベルまで向上、再編成。



また Pak'al (原住民インディオの言葉で“種を蒔く”という意味) を設立し、生徒の保護者、生徒、教師が共通の仕事をするために集会を開きました。教育・文化講座の提供や、日帰り旅行など、懇親を深める機会を設けました。学部いくつかは、経済的理由で勉学が継続できない若者のために、入学後の第1学期の授業料全額免除制度を設け、やる気のある青少年に勉学の機会を提供しています。また、1学期に1口100ドルの寄付による学業継続キャンペーンを行いました。

2018年5月、メキシコでは国際デザイン週間が計画されています。また11月には本校創立者ジョヴァンニ・リヴァ氏が ICTE の役割として提唱してきた人間性と平和を建設するため、哲学の理解を深める会議が開催されます。

最後に、この数か月の間、今に至るまでいつも私たちと共に歩んでくださった皆様に感謝を申し上げます。そして引き続きご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



皆さまの友情により、私たち ICTE の関係者は決して簡単ではない現実には勇気と笑いと明るさを忘れずにこの災害に直面できています。



**INSTITUTO DE ESTUDIOS SUPERIORES**  
FUNDADO POR GIOVANNI RIVA **ICTE**

イクテ技術専科短期大学

San Francisco 1526, Col del Valle  
Centro, 03100 Benito Juárez, CDMX,

1990年に、「ある『ひとつの小さな村』（“教育的共同体”と呼ばれ、現在もそう呼んでいます）のように」というジョヴァンニ・リヴァ先生の理念によって創立された技術専科短期大学です。安い学費で社会で即戦力となる技術を身につけることができます。貧しい若者の出発点となる場です。

## クリスマスチャリティーショップ

昨年9月に起きたメキシコ大震災の支援活動のためのクリスマスチャリティーバザーを12月19日～24日の1週間にわたり開催しました。



さっそくオーリーブジャパンのカウンターパートの軸である I.S.I (見捨てられた児童の会) を通して、メキシコに送ることができました。

オーリーブジャパンは今後も引き続きメキシコ、エルサルバドルの子どもたちのために教育支援活動を行ってまいります。今後とも皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

オーリーブジャパン事務局 榎原利恵

多くの方々のご協力により、店内はクリスマスの温かみ溢れたバザーになりました。ご寄付くださいました皆様、物品をご提供くださいました皆様、ご来店くださいました皆様、そして会場を快くお貸しくださいましたマウンテンコーヒー様に心より感謝申し上げます。1週間で約40万円の収益があり、



# 現地の NGO づくりー将来と展望 第1回

ジョヴァンニ・リヴァ

我々が NGO（非政府組織、民間支援団体）の話をする時、北と南 2 つの NGO のグループに分けなければなりません。北は先進国、南は開発途上国の NGO という意味です。私たちがこれから話すのは南の地域の援助についてですが、北の NGO は南の NGO と協力することによって開発途上国の問題を解決しようと試みます。従って、目的は同じで一つのものであります。北の NGO の目的は国際協力で、一緒に集まって音楽を聞いたり本を読んだりすることではありません。勿論、NGO に参加する人たちと一緒に音楽を聞くのは構いませんが、NGO は文化センターではなく、開発途上国と協力する国際団体です。

具体的に北の NGO にはどのような活動があるのかというと、

## 1. 「情報」

報告書、雑誌、ちらし、ビデオ（映像）の作成などを行い、情報を広げたり提供することによって開発途上国の状況を報告します。

## 2. 「開発教育」

例えば、先進国で開発国の知識を深めるための講義、講座を企画します。特に教育機関内（大学など）で行われる活動です。

## 3. 「緊急援助」

災害（地震、津波）、伝染病などが発生した時、ボランティアのスタッフ（医師、看護婦など）ですぐに動ける人々に呼び掛けて現地に派遣します。人材派遣だけではなく、医療品や物資輸送という方法も援助の一つです（例、ソマリアのサエルへの緊急援助など）。この 3 番目の活動は、特別に必要な援助に対してすぐに対応できる人材と物資を備えておくことが必要です。事態発生と同時に動けるスタッフ、すぐに使用できる機材、車（トラックなど）です。

## 4. 「現場に派遣するスタッフの選択と研修」

スタッフに現地の言葉、文化、法律などを教え、その国で行われる作業の技術的な知識など全般にわたって講習が行われます。また、スタッフを派遣するだけではなく、彼らが帰国した際にどのような仕事に就くか、復職できるかなど将来についても考えます。ここで、スタッフは 2 つの種類に分けられます。一つは現場で活動を継続するスタッフです。あるいは、一時的に調査を目的として現場に行く専門家、例えば何かを建設する時は建築家を、医学分野のことであれば医師を、教育が必要であれば教育の専門家を派遣します。

## 5. 「プロジェクトの立案」

プロジェクトは、政府や、利益を目的とする企業のものとは別なので、NGO で使うことのできる資金には限界があり非常にわずかです、従って、これらはマイクロプロジェクトと呼ばれています。例えば、3 年間のうちに利用できる資金は 4 億円程度の少ないものです。しかし、いくら小さくてもこのようなプロジェクトは大企業に対して、人々をどのように預けるべきかを示す大切な模範になります。それはもっと細かな仕事であり、現実への直面の仕方は模範的であると思われれます。

以上の活動が NGO の行うことのできる活動です。1 と 2 は経済的には問題ありません。情報紙を発行したり、公開講座を開催すれば収入があります。その収入は NGO 活動の推進に役立ちます。問題は残りの 3、4、5 の活動です。これらを実行するために資金が必要になります。その資金はどこから賄うのかを考えなくてはなりません。スタッフつまりボランティアといっても、個人的な選択で無償に行う人もいますが、ボランティア自身も自分を養わなくてはならないので給料が必要になります。その給料はどこから出されるのでしょうか。これは大切なポイントです。

（1994 年 11 月 26 日講演）

オリーブジャパンは「友情こそが真の平和を作る」というジョヴァンニ・リヴァ先生の理念から生まれました。現在、彼が提案した運動はイタリア、フランス、アイルランド、パレスチナ、日本、メキシコ、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、ベネズエラにまで広がりました。その理念を今月号から連載、紹介していきます。

エルサルバドルの子どもたちのための  
**チャリティーショップ**  
皆様のご来場をお待ちしております。

バザー用品のご提供をお願いいたします。

同時開催  
**ONEWAY 国際平和文化協会  
エルサルバドル写真展・報告会**

## エルサルバドル便り

エルサルバドルに来てから1ヶ月が経過しました。あっという間で、まだまだ慣れない事だらけです。毎日、午後からみつばち保育所の子どもたちと勉強したり遊んだりしています。子どもはさっそく私の名前を覚えてくれて、顔を見ると名前を呼んでくれるのがうれしいです。折り紙を気に入ってくれて、よく何か作ってほしいとせがまれます。スペイン語はまだまだ分かりませんが、もっと勉強して早く子どもたちといろいろ話せるようになりたいです。私が教えることより、子どもたちから教えられることの方が多い毎日です。



オリーブジャパンの仲間と共に、12月に約10日間、エルサルバドルに行ってきました。サンタテクラ市にあるマルガリータ地区というスラム街に住んでいる子どもたちと近くの公園で遊んでいた時に印象的な出来事がありました。彼らのうちの何人かが寄ってきて手を差し出してきました。何だろう？と思って見てみると、それは飴やお菓子の類でした。私に自分たちのおやつを分けてくれたのです。予想もしなかったことに驚くと同時に、とても嬉しい気持ちになりました。この出来事は私に大きな希望を与えてくれました。

(柴田 暁央)

(深見 祐貴)

**エルサルバドルの子どもたちのための  
チャリティーショップ**

2/10(土) 11:30~17:00  
2/11(日) 10:00~15:00  
本山生協会館 2階 ルーム 1  
名古屋市千種区稲舟通1-3

収益金は全て中米エルサルバドルのみつばち保育所の教育支援に遣われます。  
主催：オリーブジャパン国際開発協力協会 問い合わせ：☎080-4306-1057 (担当：竹中)

地下鉄東山線・名城線本山駅下車、徒歩3分  
駐車場あり、最寄コンビニあり。

## 会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただける  
会員の方を随時募集しています

- ・ 賛助会員 (一ヶ月一口 10,000 円)
- ・ 正会員 (一ヶ月一口 5,000 円)
- ・ 協力会員 (一ヶ月一口 2,000 円)
- ・ 参加会員 (一ヶ月一口 1,000 円)
- ・ 同調会員 (一ヶ月一口 500 円)

## 振替口座番号

**00890-1-24582**

会員の皆様には、会報「オリーブ・プレス」と  
講演会、バザー等のご案内を  
優先的にさせていただきます。

郵便振込用紙に必要事項と会員の種類、  
納入方法(月払い/年一括)をご記入の上、  
会費を納入ください。

\*お問い合わせは、下記連絡先まで

オリーブプレス Vol.22 2018年2月発行

オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com 編責：オリーブプレス編集部